＜幼稚園教育＞

心豊かな幼児の育成
―郷土の民話やわらべうたを通して―

南風原町立津嘉山幼稚園教諭　上　原　綾　子

内容要約

郷土にある民話やわらべうたを保育に取り入れ，親しませることにより人に対する信頼感や思いやりの心を育てる援助の工夫を試みた。

園での生活の中での様々な体験を友達や教師と共感し合い，地域の方とのかかわり合いを通して，人の温かさに触れ，感謝する気持ちや思いやりのある幼児の育成を図る研究を進めた。

【キーワード】心の豊かさ、信頼関係　思いやり　感謝

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由……11

Ⅱ　研究の視点……11

Ⅲ　研究内容……12
1　心豊かな子とは……12
2　沖縄の民話について……12
(1)　民話の教育的意義……12
(2)　民話の種類……12
3　わらべうたについて……13
(1)　わらべうたの教育的意義……13
(2)　わらべうたとは……13
4　民話やわらべうたの年間指導計画……13
(1)　年間指導計画をたてるにあたって……13
(2)　民話やわらべうたの年間指導計画……14
(3)　沖縄の民話やわらべうたについての保護者へのアンケートの調査結果……15

Ⅳ　実践事例……16
1　検証保育……16
2　地域の人とのかかわり……19
3　保育で活用した話……20
4　保育実践を終えて……20

Ⅴ　研究の成果と今後の課題……20

＜幼稚園教育＞

心豊かな幼児の育成

—郷土の民話やわらべうたを通して—

南風原町立津嘉山幼稚園教諭　上　原　綾　子

Ⅰ　テーマ設定の理由

幼児は，毎日「今日は何をして遊ぼうかな？」「昨日の続きをしよう」「〇〇さんと木のぼりをしよう」等と園での生活を心待ちにして登園してくる。また幼稚園では，家庭で体験できない社会・文化・自然などに触れ教師に見守られながら園生活を営んでいる。

「幼稚園では，日常生活の中で出会う様々な事物や事象，文化から感じ取るものやそのときの気持ちを友達や教師と共有し，表現し合うことを通して豊かな感性を育てるようにすることが大切である」と感性と表現に関する領域「表現」の中で示されている。このように幼児は，日常生活で出会う様々な事物・事象・文化から喜び・悲しみ・悔しさ・楽しみ等を感じ，充実感を味わい心が豊かになる。

しかし，近年，都市化・核家族化・少子化・情報化の進行，或いは共働きや女性の社会進出と言った社会状況の変化は，幼児を取り巻く直接的な環境である家庭や親の意識，あるいは地域社会にも影響を及ぼし，それが幼児の生活にも大きな影響を与えている。

幼児は，情報化の進行の中で，ビデオやテレビゲーム等一人で過ごす時間が多くなり，一方的に受け入れて遊ぶ事が増え，人との触れ合う時間が減少し情緒的な面が不安定になっているように思う。

本園では，これまで，祖父母を園に招き，触れ合いと伝承遊びを意識して，遊戯や歌，こま回しやお手玉等で遊んだり，いっしょに布で短縄を作ったり，沖縄の踊りやわらべうたを歌ったりして楽しく過ごしてきた。また，母親や祖母にも協力してもらい絵本の貸し出しや読み聞かせ，また，地域のお年寄りのデイケアへも参加し触れ合いを深めてきた。

しかし，園児の祖父母は若く，祖父母の豊かな体験に基づく民話やお話，または絵本の読み聞かせ等でコミュニケーションを図ることが困難のように感じた。地域のお年よりや祖父母の豊かな体験に基づく民話やお話などで，幼児の心が揺さぶられる。そして，人の温かさを感じ，友だちと仲良くする心地良さを共感し，人の痛みを知るやさしい子に育ってほしいという気持ちは親も教師も同じである。人として豊かに生きる力を，民話やわらべうたを幼児が多く体験することにより興味・関心を育てたいと思う。

民話やわらべうたは「人々の求める願いや理想，祖先から父母へ何代も語り伝えられてきた口承の文化的遺産である」「民話を聞く子どもたちは，夢や希望を与えられ，思いやりにあふれた心の持ち主になる」と言われる。幼児は，昔の話やわらべうた，昔から伝えられている遊びには興味を持ってかかわってくる。民話をお年寄りが語り，それを聞くことにより夢と希望が与えられ，思いやりのある幼児が育成されることは素晴らしいことである。

そこで，地域にある民話やわらべうたを保育に取り入れ親しませることにより，幼児が心豊かに郷土の文化についての興味や関心を持つことができる。また，方言が消えつつある中で郷土に眠っている文化を少しでも掘り起こし生かすことができたらと思い，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究の視点

・郷土の民話やわらべうたを保育に取り入れながら，人に対する信頼感や思いやりの気持ちを育てるための援助の工夫を探る。

Ⅲ　研究内容

1　心豊かな幼児とは

心豊かな幼児とは，生まれ育ったところを誇りに思い，感謝する心や美しいもの，自然に感動する心，自分の思ったことが言え，相手の話を聞くことができる幼児のことである。また，日常生活で出会う様々な体験の中で心情・意欲・態度を高め，友達とのかかわりの中で「ごめんなさい」「ありがとう」などの言葉が素直に表現できる。そして，相手の気持ちを汲み，立場を考えることができる幼児のことであり，よりよく生きるために必要な約束がわかり，守ることができる幼児と捉える。

2　沖縄の民話について

(1)　民話の教育的意義

民話は，「庶民の間に伝えられてきた口伝えの話である」と言われ，幼児の発達に応じて色々な話が用意され順序よく与えられていたものだという。物語の前段階として子守唄が聞かされ，次に動物昔話が語られ，次いで知恵話（笑い話）を中心とする大人の話題へ移っていく。これは，それらの話に含まれる知恵や教訓が自分と他人との葛藤，さらには社会的なものへと発展していく様子をも示している。つまり，昔から語り伝えられた民話は，人とのかかわりを促し，幼児が人間の生き方や生きるための知恵や心の豊かさ，昔話のもつ面白さ，悲しみなど人間の豊かな生き方と希望を語っており，多くの民話にふれることは内面の育ちや感性を豊かにする上で大きな役割があると考えられる。

しかし，本園の 95.4%の父母が民話を聞いたことはあるが，我が子にはほとんど話をしてない状況である。父母や教師が幼いとき聞いた民話をもう一度思い出し，意識してかかわることにより幼児の興味，関心を引き出し，心豊かな幼児を育成することができると考える。

(2)　民話の種類

①　動物昔話

・幼児は，本来動物が好きで関心を持っている。
・この話は短く，身近にいる動物（牛，馬，蛇，蛙，雀，ハエなど）の習性や形態，鳴き声などに対する観察が話の重要な構成要素になっている。今までなんとなく見てきたものを改めて見つめ，気づかせる。
・登場する動物は人間のように言葉を話し，考え，行為する。動物が擬人化されて登場するのは話のイメージ化の明確さと関連させ，動物をより子どもたちに親しみ深く，理解しやすいものにする。
・短時間に起きた一時的な争いを語り，一つの出来事や動物の形態の由来を主題にしている。

②　本格昔話

・人間を主人公としている。（ほとんどが幼い子どもや老人である。）
・ストーリー自体，他の地域から沖縄に伝えられたものであり，真実性を主張しない。
・話が長く，幾つものモチーフが鎖のように連なっている。
・旅や冒険，誕生から婚姻までを語っている。人生そのものである。
・登場人物を聞き手と語り手の年齢に近づけることで，話そのものを理解しやすくしている。

③　笑い話

・生きることの知恵があり，困難にもくじけずに生きる姿が示されている。

④　伝説

・さまざまな自然の由来を語る自然伝説。
・農耕の起源や村の始まりなどを説く文化伝説。
・祭りや信仰を語る信仰伝説。
・郷土の英雄や歴史を語る歴史伝説。

3　わらべうたについて

(1)　わらべうたの教育的意義

わらべうたは，幼児の遊びの中で歌い継がれてきた歌である。幼児を見ると木登りをしながら，「ようちえんせいは，よいこ・・・」と，楽しそうに友達と大きな声で口ずさんでいる。また，本土系のわらべうた「あぶくたった」「はないちもんめ」などをしている幼児は，生き生きと楽しそうに友達と手をつないで遊んでいる。昭和初期ごろの幼児は村行事や家庭の中，あるいは遊びという生活の中で親や祖父母・兄弟姉妹からいろいろな歌を教えられ聞き覚えていった。今，生活の場から沖縄の民謡や方言がなくなりつつある中で，集団で一つの事をすることは，人とのかかわりが増し社会生活にも大きな影響があると言われる。わらべうたは体を動かし，リズムに乗って歌い踊ることにより人との，触れ合いがある。その触れ合いの中から人に対する信頼感や思いやりの心を育てることができる。また，手や足を動かしながら歌うことは，知能の発達に大きく影響すると言われる。

そこで本土系のわらべうただけではなく，沖縄の昔懐かしいわらべうたを保育に取り入れることで郷土の文化に親しみ，興味・関心を示し，人としてよりよく生きるための基礎を培うことができるのである。

(2)　わらべうたとは

わらべうたには，遊び歌・動植物の歌・天体気象の歌・まりつき・お手玉歌・歳時歌・風俗歌・はやし・悪口・責任転嫁の歌・まじない歌・あやし歌・子守唄などがある。そのわらべうたは，その時代で歌い方が多小変化していくもので，歌の心は変わらない。

そこで，わらべうたを次の通りに定義される。

① ある地域の子どもたちの間から自然発生的に生まれ，作者が誰か問題にならない。
② 楽譜によらず口から口へ歌いつがれてきた。
③ ある程度の年月を経て，子ども達に定着している。
④ ある程度集団的に遊びながら歌われる。原則として遊びや遊戯を伴い，体を動かし，小道具を使って遊ぶ。
⑤ 地域の言葉でうたわれ，地域の自然環境や生活環境や生活習慣を歌っている。また，その中に子ども社会を反映している。
⑥ 原則的に伴奏なしで，単旋律で歌われる。

4　民話やわらべうたの年間指導計画

(1)　年間指導計画をたてるにあたって

アンケート結果，祖父母や父母から聞いたことはあるが，「よく知らない。」「忘れた。」等の答えが多く，子ども達に民話が伝えられていない。そこで，民話やわらべうたを保育に取り入れ，地域の人々とのかかわりを大切にしながら効果的に指導する為には，まず教師が意識し，子ども達に投げかけることが大切であると思う。その為に地域の実態に併わせ，幼児の発達段階を踏まえた指導ができるよう，年間指導計画を作成した。

作成にあたっては次のことに留意した。

① 季節に合わせた話やわらべうたを取り入れ，幼児の発達に応じるようにする。
② 地域の人材を生かすようにする。

また，教師の配慮として以下のことに留意した。

① イメージがわきやすいように読み方を工夫し，わかりやすいように話す。
② 発達段階に合わせた教材の工夫をする。

(2) 民話やわらべうたの年間指導計画

ねらい：人に対する信頼感や思いやりの気持ちを育てる

時　期	わらべうた・指遊び	民　話	発達の姿・留意点・教師の願い
4月～5月 (地域の行事) ・清明祭 ・母の日	☆ふーゆべまー ☆によーよーによー ☆いったあーあんまー まあかいが (指遊び)	☆親不幸の アマガク	入園前，保育園経験の子が数人いる。その中で，二人の幼児がわらべうたに興味を示している。 わらべうたや指遊びは，口ごもる歌い方をするので，ゆっくりと歌い理解させる。民話は幼児が好きなカエルの話を理解しやすい言葉で話す。
6月～7月 (地域の行事) ・慰霊の日	☆てぃんさぐぬ花 ☆月桃 ☆いっちくたっちく (指遊び) ☆じんじん	☆むかし,犬の足は 3本だった	友達関係も充実している。 「てぃんさぐぬ花」や「月桃」を歌い，民話や昔あった本当の話を聞いて，親の有難さ・人の優しさ・思いやりに気づかせたい。
9月～10月 (地域の行事) ・旧十五夜 ・綱引き	☆とうとうめーあがとみ ☆あっとうめーたり ☆ちんぬくじゅうしー	☆年寄りカラス の知恵 ☆カエルの綱引き	民話やわらべうたからリズムや言葉の面白さに気づき，口ずさむ姿がみられる。また秋の自然を感じながら，地域の行事に興味関心が出てほしい。
11月～12月 (地域の行事) ・冬至	☆ 赤田首里殿内 ☆ とぅっくいぐぁー	☆お腹のふくれた お妃 ☆飛び安里伝説 ☆津嘉山 イララグァー	面白い民話や地域にある伝説を取り入れ，話をすることにより郷土を知る。また，自分なりに絵に描いたり，話をしたり表現できる。また表現遊びが意欲的に活動できるように場を設定する。
1月～3月 (地域の行事) ・ムーチー ・正月	☆いい正月やー ☆まりつきの歌	☆十二支の始まり ☆鬼ムーチー	わらべうたや民話の楽しさを知り遊びや生活の中で十分に感じとる。 「おじいさんから，こんな話を聞いたよ。」「お母さんが同じ事を言っていた。」と家庭や地域との連携をとりながら感動体験を味わい，やさしさや思いやりの心や，人に対する信頼感が育ち，自分の気持ちが素直に表現できる。地域のよさに気づかせるようにする。

(3) 沖縄の民話やわらべうたについての保護者へのアンケートの調査結果

対象：津嘉山幼稚園全保護者

◎アンケートの目的：家庭での民話やわらべうたに対する意識調査をし，把握・分析をして，今後の保育に生かす。

◎方法：園児を通して配布し，保護者が記入する。

◎実施：平成 13 年 6 月 8 日～ 12 日　提出人数 65 人　回収率 63.7 %

沖縄の民話について

質問 1	あなたは子どもの頃，沖縄の民話を聞いたことがありますか。	答　ア　良く聞いた　10.8% イ　少し聞いた　49.2% ウ　聞かなかった　40.0%
質問 2	沖縄の民話を，誰から聞きましたか。	答　ア　祖父　5.8 %　カ　姉　2.9% イ　祖母　26.1%　キ　おじ　1.4% ウ　父　11.6%　ク　おば　4.4% エ　母　23.2%　ケ　近所の人　5.8% オ　兄　1.4%　コ　その他　17.4%
質問 3	どのような民話を，聞きましたか。	答　下記
質問 4	最近お子さんに，沖縄の民話の語り聞かせや読み聞かせをやっていますか。	答　ア　やっている　4.6% イ　やってない　95.4%
質問 5 質問 4 で (アの方)	どのような沖縄の民話の語り聞かせや読み聞かせをしていますか。	答　うらしまたろう　さん結び 鬼ムーチー　黄金の花 その他民話の絵本の中から
質問 6 質問 4 で (イの方)	民話の語り，聞かせや読み聞かせをやらないのは，どうしてですか。	答　ア　自分がよく知らない　87.7% イ　忙しい　4.6% ウ　子どもが興味を示さない　1.5% エ　その他　6.2%
質問 7	家庭で一番よく沖縄の民話の語り聞かせや読み聞かせをするのはどなたですか。(複数回答)	答　祖父　4.6%　祖母　1.5%　父　7.7% 母　15.4%　姉　1.5%　おば 1.5% 語ってない　70.3%

＜考察＞

・園児の父母は，祖父母や父母から民話を聞いた経験はあるがほとんどの父母が，自分の子どもには，「忘れた。」「良く知らない」と答え，民話を話してはいない。

・子どもに民話を話したことがある父母はほんの一部で，ほとんどが市販されている絵本やビデオなどを利用している。

質問３・どのような民話を聞きましたか

きじむなー	１３人	逆立ちゆうれい	２人
鬼ムーチー	１２人	モーイー親方	１人
耳ちり坊主	６人	津嘉山イララグァー	１人
真玉橋の由来	４人	護佐丸	１人
運玉ギルーの話	２人	クスケー由来	１人

合計４３人

＜考察＞

・キジムナーと鬼ムーチーの話が多く，地域性を感じられる話として，津嘉山イララグァーという話がある。しかし，聞かれてないので残念に思う。

Ⅳ　実践事例

1　検証保育

(1)　**活動名**：民話「むかし，犬の足は三本だった」の話を聞こう
　　わらべうたを歌おう

(2)　**活動設定の理由**

①　**教材観**

核家族，少子化，共働き等で人との触れ合う時間が減少し情緒的な面と地域の人とのコミュニケーションの取り方が不安定になっている。また，入園して２ヶ月。園生活にも慣れ，楽しむ姿も見られるが，自分の思いが先にきて，友達の持っている物を無理やり取って喧嘩になることも多い。

そこで，民話やわらべうたとかかわる事で困ったら相談したり，相談にのってあげたり，手伝う喜び，また物をもらったら喜ぶこと，大切にすること等を民話「むかし，犬の足は三本だった」の話の中で気づかせたい。この「むかし，犬の足は三本だった」の話の中に物を大事にする事や喜びお礼を言う事などが示され，心豊かな教材として適している。

また，パネルシアターを利用して民話の楽しさや面白さに触れたり，絵人形がパネルに張り付いたりする不思議さに興味を示してほしい。また，わらべうたも，指遊びや言葉に合わせての数字遊び，また教訓的な歌など幼児と共に歌い親しみ，直接あるいは間接的に様々な体験を経験することで，人に対する信頼感や思いやりの気持ちを育てて行きたい。

②　**幼児観**

幼児はお話を聞くのが大好きである。紙芝居，絵本，お話作りに積極的に取り組む姿がみられる。絵本，紙芝居，昔の話等をしているときは目をキラキラ輝かせて，自己を話しの中に投入しながら様々な体験をしていると言われる。わらべうたを歌うと「この歌知っている。」「保育園で歌った。」と言って大きな声で歌う子，「習ったけど覚えてない。」と言う子がいる。民話について親へのアンケートを調べた結果，「沖縄の民話を聞いたことがありますか？」の質問に対して聞いた 10.8 %，少し聞いた 49.2 %と合わせて 60%と半数を超えているが，語り聞かせや読み聞かせをやっていますかの質問では 95.4 %とほとんどの父母の方が語り聞かせや読み聞かせをしてないと言う結果となった。他に「語り聞かせや読み聞かせをやらないのはどうしてですか。」の質問では，「自分がよく知らない。」が 87.7 %となっている。また，「民話は誰から聞きましたか。」の質問に，「父・母・祖父母」の次に「先生」となっている。以上のことから本園の幼児は，民話に対してなじみが薄いことや家庭で民話を語る人が少ない事と，園での民話に対しての語り聞かせや読み聞かせが大切だと言う事がわかる。

③　**保育観**

民話を聞くことによって物語の中に入っていき，また，幼児が登場人物と比較したり，なりきったりすることにより人に対する思いやりや心の成長を培う。

また「わらべうたは，面白いね！」「こんな事をすると楽しいね」等と園生活や，日常生活での出来事に耳を傾け受け入れて遊ぶ中から，その子なりに表現し，幼児と共感できる雰囲気づくりをしたい。

(3)　**ねらい**

民話やわらべうたを楽しみ，自分の考えを言ったり相手の考えを聞いたりしてふれ合って遊ぶ中で，友達のよさに気づき，信頼感や思いやりを育てる。

(4) 保育の展開

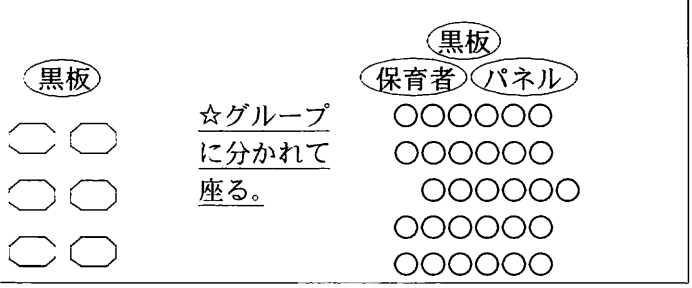
時刻	予想される活動の流れ	○教師の援助　▲子どもの想い
9:45	○みんなでわらべうたを歌う。 ・月桃 ・てぃんさぐぬ花 ・ふーゆべーまー	○みんなと一緒に楽しい雰囲気をつくって歌う。 ○簡単な振り付けや指遊びを取り入れ興味がわくようにする。 ▲面白そう，難しそうだけどやってみよう ○指遊びのときは，子どものペースに合わせて，ゆっくりわらべうたを進めていく。
10:00	○いっちくたっちくでチャンピオンを決める。	○ゆっくりとわかりやすいように歌い，言葉の面白さに気づき，楽しめるようにする。 ▲ワクワク，チャンピオンになりたいな。
10:20	○「むかし，犬の足は三本だった」の民話を聞く。	○話をしながら，子どもの表情や反応を感じながら話を，進める ○イメージがわきやすいように話し方を工夫し，わかりやすいように話す。
10:30	○話を聞いて感じたことや面白かったところについて感想を聞いてみる。	○子ども一人一人の話やつぶやきを大切にし，一緒に共感して，思いを受け止める。 ▲どろぼうが出たところが面白い。 ▲犬の足三本しかないの「かわいそう」 ▲犬の足が四本になって良かったね。 ○自分なりに表現している子に対して認めてあげ気持ちを大切にする。
10:45	○次回のお話作りや民話に期待する	○民話や友達の話を聞き，次回に期待できるように終わる。

環境構成図

・いっちくたっちくでチャンピオンを決めよう

・わらべうたを歌おう

・「むかし，犬の足は三本だった」の話を聞こう



(いっちくたっちくをしている様子)

(5) 評価

① 学級全体

○わらべうたを，楽しむことができたか。

女の子にわらべうたの大好きな子がいて，大きな声で歌う姿が見られるために，他の子ども達も，大きな声で楽しく歌っていた。

○民話のおもしろさを感じることができたか。

パネルシアターを何回か経験していたので，今日は楽しむ姿が見られた。

絵人形を見えないように，袋に入れていたので次は何が出るの楽しみにしている姿が見られた。

また話し合っているとき犬がおしっこをする様子を，身体で表現し面白さを感じたようだ。

② Aくん・Bさんの変容

Aくん

顔の表情が乏しく笑い声や話し声も少ないが，砂遊びや水遊び，また，かたつむりや亀などによくかかわって遊んでいる。
民話については，叔母から少し話を聞いたことがある。

民話やわらべうたを経験する度に，顔の表情が豊かになり，友達とかかわろうという態度がでてきた。
「何処が面白かった」という問いに「神様が出た所が面白い」と答える事ができ自分が思っていることが表現することができた。

Bくん

話を聞いているときの表情は乏しいが，戸外での遊びが好きで水遊びやおたまじゃくしなどと遊び，友だちと遊んでいる姿が見られず，一人で過ごしている。

わらべうたにのせた指遊びに積極的に取り組み，話を聞くたびに顔の表情が明るくなり笑顔が多くなった。
友達との会話も増え，友達関係も充実し楽しく遊ぶようになった。

◎良くできた　○できた　△援助することによりできる

観察の視点	評価 Aくん	評価 Bさん
わらべうたや知っている歌をうたっていた。	◎	◎
指遊びに参加していた。	◎	◎
関心を持って民話を聞いていた。(目を輝かせている･笑っている)	◎	◎

(チャンピオンを決めている様子)

③ 教師の働きかけ

○幼児にわかりやすく話をしていたか。
(速さ，間の取り方，言葉等)
・ゆっくりしたと速さで，園児にわかりやすいように話をしていた。

○絵人形の出し方，演じ方，タイミングはどうだったか。
・園児に見えないように，袋に入れて，その中からゆっくりと，興味がでるように一枚ずつ出したので次は何が出るのかと，のぞき込む様子が感じられた。
・導入時の絵人形は，違いを知らすためなので同じ絵人形を使うと良い。

(6) 考察

・わらべうた「いっちくたっちく」でのチャンピオンを決めようでは，互いに相談し，遅れてきた友達に「ここだよ」と教え，頭を寄せ合い楽しく参加している姿が見られる。またチャンピオンが決まったとき，子どもの口から自然に「勝利を讃える歌」が流れたりして，友達関係は安定している。
・沖縄の民話は初めてではあるが，パネルシアターを利用して話を進めることに興味を示し，最後まで話を聞くことができ，興味を示したようだ。
・話が終わった後，感想を聞いてみると「神様がネコに足をちょうだい」と言ったら「イヤと言って逃げたところが面白い」と自分が思っていることが表現できることがわかる。
・香炉の絵を見せると「おじいさんのお家にあるよ」とすぐにわかる子がいて，お年寄りとの交流があると感じられる。

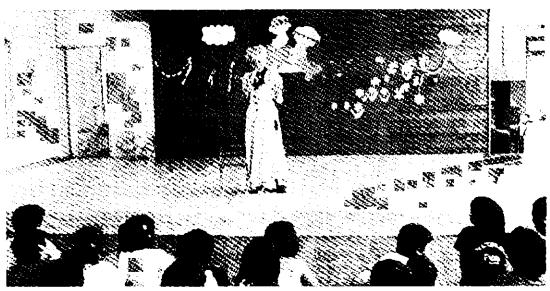
2　地域の人とかかわり

(1)　ねらい：Ｋさんの話を聞いて民話の面白さにふれ，住んでいる地域に関心を持つ。

日時：平成13年7月12日　(木)　10時～10時45分まで
お話する方：　Ｋさん（南風原町津嘉山在住）
南風原町の民話を採取し，公民館講座や保育園などで民話についてのお話や民話の語り聞かせをしたり，わらべうたを一緒に歌ったりして，民話のよさ，すばらしさを広げる活動をしている。

(2)　活動：民話を聞こう

ア　天国と地獄の話
イ　小鳥を呑みこんだおじい
ウ　飴をかうゆうれい
エ　うんこの歩く話



（Ｋさんの話を聞いている様子）

時　間	予想される活動	教師の援助
10：00	・話を聞いてホールに集まる ・Ｋさんの民話を聞く ・わらべうたを歌う 野呂殿内地ドンドン （まりつきやお手玉遊びに利用できる）	・Ｋさんの話を静かに聞くためにはどうすればいいのか話し合いをする ・教師が手拍子や拍手をして雰囲気作りに努める
11：45	・お礼を言う	・お世話になった方には「ありがとう」の言葉が言えるように話をする。

(3)　まりつきやお手玉遊びの唱え歌

（ぬんどぅんち）
野呂殿地　ドンドン
（うふや）
大家　ケンケン
エーグン　チッパー
（しまぶく）
島袋　チョウチョウ
（にしはら）
西原　コージャー
セリーヌウンチュウ小や
クミ　ハカヤー小

（みんわを聞いている様子）

＜考察＞

Ｋさんの話を導入から「うんこの歩く話」までの40分間，興味を持って聞いていた。特に「小鳥を飲み込んだおじい」の話では，繰り返しの言葉があり，「みんなで言ってみよう」という声かけに，大きな声で楽しそうに参加している姿が見られ，地域の人に対する信頼感や民話に対する面白さに，触れることができた。

民話を聞く機会が幾度かあったので，民話やわらべうたに興味を示すことができた。また，静かに話を聞くことができない子に対して，注意する姿や周りの人に対しての気遣う姿も見られ，思いやりの心が育っていることがわかった。

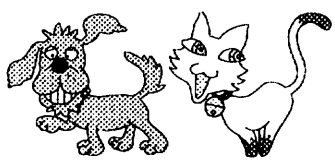
3　保育で活用した話（むかし，犬の足は三本だった）

むかし，そのまたずーとむかし　犬がいたって，その犬の足は三本しかなかった。その犬は人間と仲良しでね，人間の家の門番をしていたって。恐ろしいオオカミや悪い泥棒がやってくると「ウー，ウー，ワンワン」と人間に教えていました。

でも，「ピョコタン，ピョコタン」としか走れないし，あっちにコロンこっちにコロンと転んでばかりいました。犬は大変困って神様の所へ行きました。「神様神様お願いです。オオカミのように早く走れるようにもう一本足を下さい」犬は大きな涙を，ポトポト，流して神様に一生懸命お願いしました。神様もかわいそうに思って「もう一本足をあげよう」と答えました。だけど犬にあげる足は見つかりません。神様が，ずーと考えているとネコがやってきました。神様はネコに「おいおい！ネコさん足を犬にあげてくれないか」とお願いしました。ネコはビックリして「とんでもない。足を一本犬さんにあげたら私が走れない。困ります」と言って断りました。「困ったことだ，こんなことなら，始めから足は四本だったな」と思い家に帰っていきました。

神様の家には，香炉というのがあって，その香炉の足は四本あるのに気がついた神様は香炉に頼みました。「おい香炉よ，お前の足を一本だけ犬に譲っておくれ」香炉は「私は神様のお手伝いするのができて嬉しいです。私は三本の足でも大丈夫ですからいいですよ。」といってくれました。神様は，すぐに香炉の足を犬につけてあげました。犬は喜んで，飛び上がったり，転げ回ったり，走ったりして喜びました。犬は神様に何度もお礼を言いました。

それから，犬はおしっこをするときは，神様からもらった足を汚さないようにいつでも足を上げておしっこをするんだってさ



おしまい

4　保育実践を終えて

民話やわらべうたと言えば方言が付き物である。しかし，民話やわらべうたという言葉も知らない子ども達に，沖縄独特のリズムや言葉の面白さに興味を示すことは少々困難のような気がした。

そこで，幼児が分かりやすいようにゆっくりと話をし，興味をもつよう教材を工夫したことで，話の聞き方も上手くなり「もっとお話聞かせて」「この歌，もう覚えたよ」と言う声も聞かれ，民話やわらべうたに興味を持つようになった。また地域の方々の話を聞くことにより，民話のすばらしさ・やさしさ・温かさ等に触れ，地域を知るきっかけにもなり興味・関心を持つようになった。笑顔の少ない子や自分の思ったことが表現できなかった子が，民話を聞いたり，わらべうたを歌ったりするうちに，笑顔が増し，友達関係も充実してきた。

Ⅴ　研究の成果と今後の課題

1　成果

(1)　郷土の民話やわらべうたに慣れ親しむ中で，友達関係が充実し民話やわらべうた・地域に対し興味・関心を持つようになった。

(2)　教師や友達・地域の人との心の触れ合いを深めることができ，人に対するやさしさや思いやり，人の気持ちを大切にする心が育ってきた。

(3)　民話やわらべうたの年間指導計画を立案したことによって，保育の見通しを持って指導し，保育実践に役立てることができる。

2　今後の課題

(1)　年間指導計画に基づいて郷土の民話やわらべうたを教材化し，実践を深めていきたい。

(2)　家庭や地域の連携をとりながら，日常生活の中で民話やわらべうたに親しませていきたい。

＜主な参考文献＞

文部省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	1999 年
高江洲義寛	『沖縄のわらべうた』	世界文化社	2001 年
遠藤庄治	『沖縄の民話資料　第１・２集』	沖縄民話の会	1978 年～ 1979 年
藤原久雄	『国語教育研究大辞典』	明治図書	1991 年